

## 「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」TEMDEC (Telemedicine Development Center of Asia)活動報告：第17巻

<https://doi.org/10.15017/4475399>

---

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 17, 2021-03. TENDEC Office  
バージョン：  
権利関係：

---

---

---

---

---

---

---

---

### 3. 退任記念特集

---

---

---

---

---

---

---

---



1



3



5

**1月**  
福岡と釜山の間に2Gbpsの光ファイバーケーブルが開通

**2月**  
DVTS を使用した初めての日韓テレカンファレンスを実施

**4月**  
日韓拠点大学交流事業が採択

**8月**  
**① 初めてのライブ手術配信を実施。マスコミへの公開**

**1月**  
タイを初接続

**3月**  
**③ DVTS による 4 施設接続に成功(福岡、ソウル、北京、台北)**

**4月**  
九州大学P&Pプロジェクトに採択

**8月**  
AQUA (Asia- Kyushu Advanced Medical Network) の発足

**11月**  
第 20 回 APAN (台北) で医療ワーキンググループが正式承認

シンガポールを初接続

2003

2005



**TEMDEC**と清水先生  
Telemedicine Development Center of Asia  
**20年**の歩み

2002

2004

2006

**5月**  
FIFA ワールドカップが日本と韓国で共同開催

**11月**  
「玄海プロジェクト」へ九大病院が医療チームとして参加

**1月**  
**② アメリカ合衆国(ハワイ)を初接続**

**7月**  
オーストラリアを初接続

**10月**  
中国を初接続

**12月**  
台湾を初接続

**4月**  
アジア研究教育拠点事業が採択

**6月**  
**④ ベトナムを初接続**

**7月**  
香港、インドネシアを初接続



2



4



6



8



10

1月

フィリピン、インド、マレーシアを初接続

3月

ハイビジョン画質でライブ手術映像を配信

4月

日中医学交流事業が採択

6月

イベント数が100回となる

8月

ヨーロッパとの初めての接続ードイツ、フランス

12月

**アジア科学技術コミュニティ形成戦略・機動的国際交流支援事業の採択により第1回アジア遠隔医療シンポジウムを開催**

イタリアを初接続

5月

アフリカ大陸との初めての接続ーエジプト

6月

**ノルウェーを初接続**

7月

中南米との初めての接続ーブラジル

10月

メキシコ初接続

12月

第3回アジア遠隔医療シンポジウムを福岡で開催

3月

**TEMDECに遠隔会議室が完成**

4月

科学研究費基盤研究(A)の採択

若手研究者招聘事業が採択

Vidyoを始めて使用

9月

南アフリカ共和国へのライブ手術が成功

10月

センター初専任の学術研究員が採用

12月

第5回アジア遠隔医療シンポジウムを福岡で開催

2007



2009



2011



10th



2008

4月

科学研究費基盤研究(B)が採択

9月

チェコ、スペインを初接続

10月

「アジア遠隔医療開発センター」が病院中央診療施設の一つとして新設される。田中雅夫センター長が就任

12月

第2回アジア遠隔医療シンポジウムをソウルで開催

2010

4月

特別教育研究経費が採択

11月

チリ初接続

12月

第4回アジア遠隔医療シンポジウムをソウルで開催



7



9



11



13

**1月**  
産経新聞の正月特番に活動が紹介される  
Quatre-16によるDVTS多地点接続

**9** **ラテンアメリカとのDVTS内視鏡カンファレンスが成功**

**2月**  
参加者自宅を初接続

**4月**  
中央アジアへの展開：CARENと接続

**6月**  
一方向配信（ストリーミング）を初めて実施

**7月**  
献体を用いたライブを初めて開催  
コロンビア初接続

**10月**  
臨床研究奨励基金 臨床研究助成の採択

**11月**  
九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト（P&P）特別枠の採択

**12月**  
第7回アジア遠隔医療シンポジウムがタイのバンコクで初めて開催

**1月**  
アジア・アフリカ学術基盤形成型研究拠点形成事業の採択決定。早期胃癌プロジェクトの開始。

**12** **九州大学改革活性化制度に採択。国際医療部の設置が決定、海外交流センターの新設。**

**3月**  
ユーラシア横断情報ネットワークの遠隔医療プロジェクト採択

**7月**  
TEMDECでの遠隔医療指導者養成プログラムを開始

**10月**  
バングラデシュで遠隔医療シンポジウムを開催

**11月**  
第9回アジア遠隔医療シンポジウムを韓国・忠北大学で開催

**12月**  
大分大学からベトナム・ハノイ、フエ、ホーチミンの4病院へ内視鏡ライブデモを実施



2012

**3月**  
ネパール初接続

**4月**  
清水周次センター長就任  
国立大学病院長会議の中に国際化プロジェクトチームが結成され、九州大学病院が担当校になる

**12月**  
**8** **第6回アジア遠隔医療シンポジウムを福岡で開催（活動10周年記念大会）**



12

2014

**2月**  
**10** **第1回国立大学病院国際会議で28国立大学をVidyoで接続**

**5月**  
第87回日本消化器内視鏡学会で学会史上初となるライブデモンストレーションを実施

**6月**  
遠隔医療教育プログラム管理システム med-hok の院内運用開始

**7月**  
九州・沖縄小児がん拠点事業の第一回小児がんテレカンファレンスを実施

**9月**  
第2回国立大学病院国際会議で28国立大学をH.323で接続  
TEIN4 Application Workshop 2014の採択

**11月**  
**11** **メキシコ消化器病学会へ日本からの消化器内視鏡ライブを初めて実施**

**12月**  
第8回アジア遠隔医療シンポジウムを福岡で開催。国立大学病院長会議と共催イベント数が500回となる

2016

**4月**  
新技術JoinView（動画共有システム）の導入

**5月**  
ラテンアメリカ早期がんプロジェクトの開始

**7月**  
第1回フィリピン遠隔医療ワークショップを開催  
技術者マニュアルを作成

**8月**  
**13** **第1回インドネシア遠隔医療ワークショップを開催**

**9月**  
第1回ネパール遠隔医療ワークショップを開催

**10月**  
インドネシア月例内視鏡カンファレンスの開始

**11月**  
**14** **アジア太平洋消化器学会にて内視鏡ライブデモを実施**

**12月**  
第1回ベトナム遠隔医療ワークショップを開催  
海外患者に対する遠隔医療相談の試みの開始



15



17



19

2月

第43回 APAN 会議で Zoom を初めて使用  
インドネシアとの神経内科カンファレンスの開始

6月

Asi@Connect プロジェクトの採択、遠隔医療拡大のための技術者養成プログラムを開始

活動ポリシーの明文化

10月

15 清水周次センター長が世界消化器病学会で日本人初の最高栄誉賞を受賞

11月

第1回チリ遠隔医療ワークショップを開催

3月

イベント数が1000回となる

6月

第1回キルギス遠隔医療ワークショップを開催

7月

17 アジア・オセアニア研究教育機構(Q-AOS)の発足

18 ロシアプロジェクトの開始

モンゴルを訪問

第48回 APAN 会議で医療グループセッションが「最優秀セッション賞」を受賞

9月

医療技術等国際展開推進事業の採択、ミャンマープロジェクトの開始

10月

キルギス内視鏡セミナー

第1回ブータン遠隔医療ワークショップを開催

12月

第13回アジア遠隔医療シンポジウムをフィリピンのマニラで開催

第4回国際臨床医学会を福岡で開催

1月

第1回ブータン医療セミナーを開催

2月

九州大学病院でオンライン面会・遠隔病状説明を開始

接続施設実績 2021年2月28日時点

78か国 1117施設  
イベント 1330回

2017

2019

2021

2018

2020



1月

アジア太平洋先端ネットワーク (APAN) 医療グループの体制を刷新

タンザニアと初接続

8月

第46回 APAN 会議で医療グループセッションが "Most Complete Session Description Award" を受賞

11月

16 第12回アジア遠隔医療シンポジウムを福岡で開催、第22回日本遠隔医療学会と共催

第1回アフリカテレカンファレンスを開催

第1回メキシコ遠隔医療ワークショップを開催

第2回チリ遠隔医療ワークショップ、チリ・アレマナ病院とのMOU締結

12月

第1回ミャンマー遠隔医療ワークショップを開催  
ロシア・ウラジオストク鉄道病院とのMOU締結

2月

新型コロナウイルス感染症が世界的に流行する

3月

第49回 APAN 会議が中止、APAN 医療ワーキンググループをオンラインで開催する

新型コロナウイルス感染症に関する救急医療カンファレンスの開催  
ストリーミング視聴数が3,000件を超える

4月

医学部オンライン講義の支援開始

5月

第一号 国際医療部だよりを配布

6月

日本医療情報学会 (JAMI) にて初の学会オンライン開催の技術支援

8月

19 オンラインインタラクティブイベント Fire net works の技術支援

11月

第14回アジア遠隔医療シンポジウムを台湾で開催



14



16



18

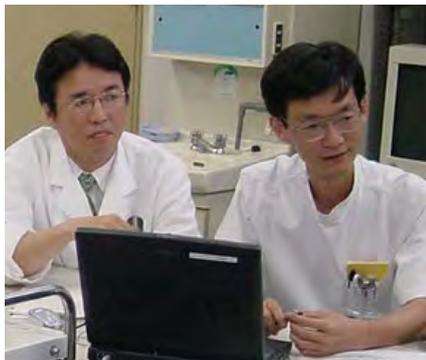
## 清水周次先生のご退任に寄せて

中島直樹

九州大学病院メディカル・インフォメーションセンター長・教授  
 国際医療部・国際診療支援センター長兼任

清水周次先生と初めてお話をさせていただいたのは確か 2002 年頃、「韓国と福岡を動画ネットワークで繋ぎたいんだけど手伝わない？」というお話でした。爾来、20 年近く私が国際医療活動に関わってきた理由は、清水先生に影響を受け続けてのことだと感じています。清水先生がいつも心から楽しそうに海外のこと、遠隔医療のことをお話になられるので、ついついこちらもその気になって、気が付いたら今日になっていました。

2008 年に TEMDEC が発足する前までは、全くの手弁当でした。それが今や日本どころかアジアを代表する遠隔医療教育活動拠点になり、また九州大学病院には国際医療部として国際交流・医学教育・診療の拠点が出来るまでに育ったことは、近くで活動を見続けていた身としても信じられない思いです。身近の先輩がいつの間にかハリウッドスターになったようなものです。しかしながら、清水先生はどの時点でもそうなることを目指していたのではなく、ただやりたいこと、面白いこと、世の中のためになることを続



けていたら、いつの間にか大輪の花が咲いた、という気がいたします。弛まぬご努力とその裏のご苦勞も多かったことは存じていますが、才能と人柄を兼ね備えた真の国際人だと羨ましく感じます。

ご活動を通じて今や世界中に清水先生のファンや弟子が大勢いることでしょう。私はその第 1 号であることを自負し誇りに思っています。これからも益々ご活躍ください、などと私が言わなくても、清水先生は間違いなくこれからも楽しみながら、活躍をされつづけるでしょう。どうか健康にだけはご留意ください。

## 清水先生のスピード

工藤孔梨子

アジア遠隔医療開発センター (TEMDEC)

10 年前、私が清水先生に初めてお会いしたときの印象は、「なんてスピーディーで、明快なコミュニケーションをとられるのだろう！」でした。TEMDEC に来る前の私は入念に「他意」と向き合い、メール 1 本書くのに 1 時間もかけへとへとになっていたのですが、アップテンポで明朗な清水先生が作られた TEMDEC のコミュニケーションスタイルに感動しました。そして、TEMDEC での業務もまた、そのスピード感でどんどん変わっていきました。システムの簡易化、コンテンツ・規模の増加、国立大学のプロジェクト、マニュアル作成、技術指導、各国内への導入、ものすごいスピードで変化する世界をさらに先進するためには、常に走りながら考えるべきなのだ、と清水先生を見ていて学びました。他にも、「風邪を引いたら横になること」、「他人がすることに興味を持つこと」、「知らない単語を見たらその時に調べること」、「名前のスペルを間違えないこと」、「文



書は完璧に綺麗に作ること」、「業績はしっかりアピールすること」、「何度だめでもあきらめないこと」、「自分が動けばそのうち世の中が動くこともあること」、など、清水先生から学んだことは沢山あります。そればかりか、これからも教えていただくつもりです。(ですよね、先生?)

このたびは、ご退任、大変おめでとうございます。先生がそのスピードで、世界の断絶を鮮やかに「つなげて」こられたように、私たちも走り続けます。

## Dear Professor Shuji Shimizu



Time flies!

When I hear that you are going to retire soon, it seems unbelievable.

Looking back years, which we have spent together, it is like a series of drama.

We have known each other around for 20 years.

At first, maybe in 2001, you tried to find the surgeon who are very active in laparoscopic surgery in some conferences. The



man from the conference booth for medical equipment have introduced us together.

Then, we have visited each other's hospital for invited lectures and exchange of informations.

Around 2002, there has been a small meeting of network engineer for Hyunhae-Genkai project, which is big project for research network between Korea and Japan. We are fascinated by this project and started co-works on tele-medical activities. The year 2002 was also memorable as the World cup game was held in Korea and Japan together. Then, we have started connection between Seoul and Fukuoka, which is a start of tele-medical activity.

We traveled a lot together globally if there is any possibilities to expand our activities, including SAGES in LA, USA. Definitely, we have never omitted APAN meeting twice a year, which were held all around Asian cities and Hawaii too.

The activities have stimulated technical development in network and also expanded technical engineer as well.

We have met so many wonderful people around the world, make them close by network as a family.

This activity also has propagated up-to-date knowledge or techniques to our neighboring countries.

When we found that many people benefit from our activity, we are very happy.

Current situation due to Corona pandemics have urged us to use teleconference in many meetings.

But we have used this teleconference long before Corona pandemic begins.

Now after 20 years of passion and dedication, you will step down from the head of TEMDEC.

But you are happy that there are so many very excellent successor and followers of you.

It is very timely and honorable that you will become vice president of Kyushu University.

Although, you may retire from leadership position, it is good that you will be continuous supporter for this activity. I will be happy to join with you as a supporter for this group.

Many congratulations for your honorable retirement.

Cheers!



Ho-Seong Han

Department of Surgery.

Seoul National University Bundang Hospital, College of Medicine, Seoul National University.

---

## Retirement Celebration of Prof. Shuji Shimizu

Back in 2003, there was a fine-looking Japanese endoscopic surgeon with a warm smile came to visit our hospital. That was the first time I met Prof. Shimizu.

For many years, we had worked side by side not only in the OR but in several telemedicine activities. I respect Prof. Shimizu for his professionalism in laparoscopic surgery, as well as his trustworthiness, his dedication, and his generous support to our surgical residents, MIS fellows, and junior staff.

Last but not least, I would like to send my heartfelt wishes to our beloved Prof. Shimizu for his next phase of life. It has been our pleasure and privilege to know and to work with you.



Congratulations on your wonderful career, and happy retirement!

Prof. Thawatchai Akaraviputh

MD, Dr. med. (Hamburg) Telemedicine Minimally Invasive Surgery Unit,

Department of Surgery,

Faculty of Medicine Siriraj Hospital, Mahidol University